

エンドユーザーによる森林資源利用のアイデアとリミテーション —A マンションを事例として—

○佐藤孝吉・小華和あおい（東京農大）

1. はじめに

生活の利便性は年々向上し、安価でサービスを受けられるようになった。その一方で利便性の仕組みや技術、物質循環にかかわる生産過程は益々不透明となってきている。森林資源利用は、森林の広大な面積と多様な生産物、公益的機能とのバランスなどの特徴を考慮すると効率の良いサービスの提供が困難であり、収益性は益々低下してきている。エンドユーザーが立木の状態から森林資源利用に取り組むことは一般的ではないが、その現状を知ること、そして新しいアイデアを創出すること、生産物に対する愛着を持つことにより、その付加価値をあげられるのではないかと考えた。そこで、都内のAマンション住民をエンドユーザーの事例とし、立木、素材、製材品、製品と森林資源が変化する中で、利用に関する行動や意識の変化がどのように見られるかを考えた。

2. 調査および分析の視点

森林資源利用の段階を①立木、②伐採木、③製材品、④製品とすると、①②間に樹木の伐採、運搬、②③間に製材、保管、③④間に加工が行われる。それぞれの段階における活用の実態とアンケート調査をもとに分析した。

3. 森林利用の状況

A マンションは、2006年12月竣工、住民は29世帯（90名）、4階および3階2つの建物からなる。建築や部材にできるだけ自然素材を活用することをコンセプトの1つとし、建設前に協同運営による組合を組織し、建設地の森林利用について入居前に検討が行われた。対象とした森林は、A マンション建設予定地に位置し、シラカシやコナラを中心とした天然生林であり、伐採木の年輪から上層木はおおよそ100年生である。森林伐採以前は、話し合いの中で、1)樹木名の確認、2)直径や樹高を測定、3)自生樹木の一部移植、4)既存の樹木を活かす要望や計画、5)伐採木に対する供養、6)形質の良くない伐採木を原木として、7)シイタケ駒の植菌、8)比較的形質の良い素材を選別し、9)製材所へ運搬、10)保管され、11)製材品を個々や全体として活用してきた。調査の対象とした素材は24本で、コナラ11本（45.8%）、シラカシ10本（41.7%）、直径は20~70cm、長さは、1.5~4mであった。

4. 結果および考察

森林資源利用に対する多様なアイデアが出された。利用に関しては、主に技術的、経済的、使用量、入居後の生活状況などから困難となり興味も低下したと考えられる。

キーワード：エンドユーザー、森林資源、木材利用、A マンション

（連絡先：佐藤孝吉 satota@nodai.ac.jp）